

1 学校として目指す授業

①自己表現する力を伸ばすことができる授業	②互いに認め合う態度を養う授業	③粘り強く取り組む力を伸ばすことができる授業
----------------------	-----------------	------------------------

2 生徒の現状

(1)「全国学力・学習状況調査」の分析(中学校3年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
- 平均正答率が数学66%、国語65%と全国平均より10%以上高い。 - 記述式の問題正答率が国語39.7%、数学57.6%と選択式・短答式より低い。	- 自己肯定感が高い。84.3% - 平日に授業以外に勉強している生徒が多い。3h以上19.4%、2～3h27.8%、1～2h26.9% - 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。90.7%

(2)都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析

- 漢字の学習等では、反復したり間違えたものを特に復習したりしているが、部首の意味や使われている熟語などを確かめながら覚えている生徒が比較的少ない。 - 数学の学習では、学習した言葉を使って自分の考え方を説明している、問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている生徒が比較的少ない。 - 学校以外での学習の進め方では、自分で計画を立てて学習したり、これから学習することの見通しをもつようにしている生徒が比較的少ない。

(3)その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
- 各教科の基礎的なことは分かったりできるようになっていたりしていますか。85.4% - 授業中に話し合いや協働活動を通して理解を深めることができていますか。88.7% 「学校評価アンケート(生徒)」

3 生徒の学力・学習状況等の課題

- 基礎的な学力は高いが、自分の考えや思いを記述や口頭発表等で表現することが得意ではない生徒が多い。 - 課題に対して、ある程度の取組を終えるとやり終えた気になり、よりよい解答や作品等に高めようとする気持ちが薄い。
--

4 学校全体の授業改善の視点

- 話し合いや協働作業等を行い、学習内容について理解を深める。 - 発表等の場面を授業内に設定して、その取組をより高める指導を行い、適切に評価する。また発表を聞く立場の生徒に対して認め合う態度を養う指導を行う。
--

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
- ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学 年	・個々の学習状況に応じて基礎の定着を図るとともに、ICT機器を活用しながら話し合い活動を深め、自己表現できるようにする。		・振り返りシートを活用し、自身の学習状況を客観的に把握できるようにする。 ・タブレットやレポート等、様々な方法で表現活動を行う。		・習熟度別少人数授業を活かし、基礎・基本の定着を図る。 ・グループワークを通して、思考・判断・表現する力を養う。		・ICT活用や話し合い活動を通して、問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行う。予想・仮説のプロセスを重視して、規則性や関係性を表現する。		・器楽、創作のグループ活動で個人の考えを生かした表現ができるようにする。		・「知識・技能」では美術用語、印象的な言葉など言語表現を支援し「思考・判断・表現」では対話的活動を通じて能力を養う。		・体力、技能に応じた個々の課題に取り組み、グループ活動等を通して互いを認め合う態度を養う。		・設計場面で互いにアイディアを評価し合う活動を行い、自分の設計に生かす指導を行う。		・知識分野の基礎基本の定着を目指しながら、など日々の言語活動を通して表現の力を養う。		・教材通じて、人として大切なことを理解し、多様な意見や考え方を深め、自分の言葉で考えを表現できるようにする。	
2 学 年	・学習目標と内容、学びの過程を明確に示すことで、主体的な学習を促し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。		・学んだことを確実に知識として定着できるように評価材料を工夫する。 ・振り返りシートを活用し、学習状況を客観的に把握できるようにする。 ・タブレットやレポート等、様々な方法で表現活動を行う。		・習熟度別少人数授業を活かし、個別最適化された授業を実践していく。 ・学び合い活動を通して、思考・判断・表現する力を向上させる。		・ICT活用や話し合い活動を通して、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行う。予想・仮説のプロセスを重視するとともに、結果を分析して仮説の分析を行う。		・歌唱の活動で発表を聴き合う機会をもち、表現技能の向上を図る。		・ICTを活用し、表現や鑑賞の幅を広げる。また、作品完成までの制作活動の見通しを持ち、思考判断する力を養う。		・ICTを活用し体力、技能に応じた個々の課題に取り組み、話し合いやグループ活動を通して互いを認め合う態度を養う。		・育成計画のアイディアを出し合う活動を行い、班の育成計画を立てる指導を行う。		・生徒が表現する内容を個別に選択できるようにし、対話的活動を通して表現する力を主体的に育む。		・教材を通して、生徒が自らの生き方を考え、行動しようとする態度を育てるために、発問や活動を工夫する。	
3 学 年	・社会的な課題に対して、収集した情報を比較したり、分析したりしながら、自分の立場を明確にして表現する活動を設定していく。		・社会科の技能、判断や表現の力を向上するため発表の学習を取り入れる。 ・タブレットやレポート等、様々な方法で表現活動を行う。		・習熟度別少人数授業を生かし、個別最適化された授業を実践していく。 ・レポート作成をさせ、より思考・判断・表現する力を養う。		・ICT活用や話し合い活動を通して、実験結果や資料を分析して解釈する。規則性や関係性を見いだして表現することで、探究過程を振り返る。		・歌唱と器楽の活動で演奏を客観的に見ることににより意図をもった表現をする能力を高める。		・ICTを活用し、自己表現の幅を広げる。また完成までの制作活動の見通しをもち、表現する力を養う。		・自己の課題や仲間の課題に対して話し合いやグループ活動を通して、主体的に取り組む態度を養う。		・エネルギーについて話し合う活動を行い、これからの社会をよりよくつくっていく指導を行う。		・自ら課題や学習方法を選択することで個別最適化された学習を目指し、対話的活動を多く行うことで協働的な学びを通し表現する力を養う。		・グループでの意見交換や振り返りの時間を通して、様々な考えを土台にして、自己の生き方についての考えを深めるようにする。	